

## 説教「ずっと前から、み旨の中に」

詩編一三九・一三〜一八  
エフエソ一・四〜六

牧師 森田恭一郎

今日の説教題を「ずっと前から、み旨の中に」としました。まず「み旨」というのは、神様のお心、お考え、ご計画、決めたぞ、やるぞ、という神様のご意志です。それで何をするのかというと、愛することにしたぞ、というご意志です。神は私たちを愛して(エフエソ一・四)とある通りです。この愛のご意志の内容を、御自分の前で聖なる者、

汚れない者にしよう、と言い換えています。神様が、やるぞ、とお決めになったのです。だから

私たちの方から、自分は聖なる者になるぞ、汚れない者になるぞ、と頑張ることではありません。誰が頑張るのかと言うと、キリストにおいてお選びになりました。神様が頑張つて、キリストが十字架で私たちの汚れを背負うことによって、私たちを聖なる者、御自身の者として下さった訳です。

いつから?と考えてみましょう。キリストが十字架にお架かりになったのは、今からおよそ二千年前のことです。そしてそれを神様が、やるぞ、とお決めになったのは、それよりもずっとずっと前からです。ずっと前、いつかというところ、天地創造の前に(エフエソ一・四)とある通りなんです。

皆さん、自分の年齢、ありますね。仮に三歳のお子さんのことを例に考えてみましょう。三歳というのは生まれてから三年、生きてきたということですね。それでは一年前は? 二歳でした。二

年前は? 一歳でした。三年前はゼロ歳でした。それではその前は? お母さんのお腹の中でした。あなたは、私の内臓を造り、母の胎内に私を組み立てて下さった。退治であつた私をあなたの目は見ておられた。私の日々はあなたの書に全て記されている。まだその一日も造られない内から詩編一三九・二三、一六とある通りです。お腹の中におよそ十ヶ月います。

それでは、それでは……、お母さんのお腹の中に宿るその前は? 皆さんはその時、どこにいましたか? 答えは、どこにもいません。でも……、聖書はとてとても大事なことを語っています。

天地創造の前に(エフエソ一・四)。お母さんのお腹の中に宿る前、それも更にずっとずっと前の天地創造の前、永遠の昔に! 神は私たちを愛して。天地創造の前に、み旨があつた。決めたぞ、やるぞ、という神様のご意志があつた。私たちがみんなのことを愛することにしたぞ、というご意志があつた。その時、神様の頭の中には、もう、私たち、みんなの顔、姿、名前がある。私たち一人ひとりの名前を覚えて、私たちを愛する神様のご意志。ご計画があつた訳です。

そして、御自分の前で聖なる者、汚れない者にしよう、キリストにおいてお選びになりました。イエスキリストによって神の子にしよう、御心のままに前もってお定めになったのです(エフエソ一・四〜五)。キリストにおいて、というのはキリストが十字架におかかりになって人間をすくい取って、三日目に甦られて永遠の命を確かな

ものとされた、キリストによる救いの計画に、私たちを盛り込んでいるということです。そのご計画を神様は天地創造の前に決めておられた。だからそれは、私たちが生まれてからの、顔が良いとか悪いとか、性格が素直とかひねくれているとか、お金持ちの家に生まれたとか貧乏な家に生まれたとか、成績が優秀かどうかとか、更に、何かしらの病や障害を持つて生まれてきたとか、流産や死産だった、そういうことにも関係ない。キリストから見れば、私たちは、聖なる者、汚れない者、神の子。そういう身分を恵みとしてプレゼントされた者として生きれば良い、ということなのです。

教会連合-22



この聖句カード(23年度 No 22)を御覧下さい。この子たちは、神の子たちとして生きています。何をしていますか? 神がその愛する御子によって与えて下さった輝かしい恵みを、私たちがたたえるためです(エフエソ一・六)。教会で賛美を歌ったり祈ったりして、喜んでほめたたえています。キリストに於いて私たちは、聖なる者、汚れない者、神の子たちだ、という信仰は、陰府

の力、死の力も對抗できない。それ程に揺るがない。そう信じるようにと教会に招かれている私たちは、神様をたたえて生きます。

このように、天地創造の前から、神様はキリストに於いて、私たちをほめたたえる者として造ろう、生きてもらおう、とお決め下さった訳ですが、それでは、この地上の人生を終えたらどうなるでしょうか。**私は尚、あなたの中にいる**（詩編一三九・一八）。私たちがこの世の人生を終えた後も、神様はキリストにあつて罪贖われた者として、一人ひとりとその人生を忘れることなく御心の内に覚えておられ、**私たちを愛して**（エフエソ一・四）下さる、（エフエソ一・四）。地上の人生の後のことは、愛の神様にお委ねして安心して良い、私たちは、そう信じます。この後、誕生日の歌を歌います。生まれたその日に歌ってあげたい。それから毎年誕生日毎に歌います。そして天上の世界でも甦らされたら、いつでもみんなで歌える褒め歌う歌です。